

視点

「脳の性質を味方につける 自信の育て方」

人財教育家・メンタルコーチ
飯山 昶 朗



メンタルコーチングの専門家として、多くのスポーツ選手や指導者、経営者などビジネスパーソンと接してきましたが、必ずと言ってよいくらい口にするのが「自信がない」とか「自分にはできると思えない」という言葉です。そのときに、「自信とは『自分を信頼している』ということです。できるかどうかを言っているのではないのです。」とお伝えしています。

自分を信頼して「できる!」と思って取り組んでいる人は放っておいても行動しますし、多少の苦難があっても「自分ならできる」と思っていますから、苦難を乗り越える力があります。そして望む結果を得る可能性が広がります。一方で「無理かも」、「できないかも」と思いながら取り組んでいる人もいます。この人はどうでしょうか。「無理だ」と思っていますから、まず行動を起こさないですね。行動しませんから失敗ありません。ただ、望む結果を得ることもありません。ということは、自信のない人よりも自信のある人のほうが成功する可能性が高いということがわかります。そういったことから「自信をつけたい」という話になるのでしょうか。

ではどのようにしたら自信（自己信頼）が身につくのでしょうか。実は、私たちの脳は問いかけたとおりに答えを出してくるという性質があります。優秀な人かどうかは、この問いかけ方次第だと言っても過言ではないでしょう。例えば、高校野球の試合で何度もバントのミスをしてしまったときに「なんでうまくできないのか?」と問いかけをしたとします。脳は問いかけた通りに答えを出そうとしますので「できない理由」を返してきます。「バットのヘッドが下がっているからだ」、「しっかりとバットを握っていないからだ」、「そもそも怖がってしまっているからだ」。このように、バントができない理由ばかり並べてきます。これではいつまで経ってもバントがうまくなりませんね。

ではこれを「どうすればうまくバントができる

か?」という問いかけにしてみます。すると脳は「成功するための方法」を返してきます。「バットのヘッドを上げる」、「勇気を持って一歩足を踏み出す」など。これらが正しい回答かどうかは別にして、このように成功する方法を考えようと脳が働くということをお伝えしたかったのです。

では、これをもう少し踏み込んだ問いかけに変えてみましょう。「どうしてバントが上手になったのか?」この問いかけの回答はどんなものになるでしょう。「バントの練習を繰り返したから」、「上手にバントしているイメージができたから」、「できると思えたから」といったような回答に変わります。問いかけによって脳からの回答が変わることをご理解いただけたのではないかと思います。この脳の性質を活用したのが、コーチングにおける質問の仕方になります。

この問いかけは、仕事においてもとても有効です。例えば「プレゼンを成功させるためには何があればいいか」と問いかけると、何があればいいのだろうか・・と、成功する前提で考え始めます。また、一歩踏み込んで「どうしてプレゼンが成功したのだろうか?」と「できた」自分をイメージして、成功している自分から考えさせると、成功するためのプロセスも見えてくるようになります。

自分を信頼できる、つまり自信をつけるには、「できない」ところではなく、「できる」ところにスポットライトを当てていくことが大事だということがわかりますね。



プロフィール

飯山昶朗（いいやま・じろう）

オリンピックでの逆転金メダルや高校野球史上に残る奇跡の大逆転、顧客満足度日本一になった中小企業などをサポートしてきた、リーダーシップ・コーチングの専門家。著書は16冊（文庫版、海外版含む）。中小企業庁が運営する全国の中小企業大学校では「リーダーシップ講座」「コーチング講座」「チームビルディング講座」「経営管理者コース」の講師を務め、目標の実現など望む結果を得るノウハウを脳科学に基づいて提供している。

令和 7 年度 地区教研大会概要

北海道地区 教育研究大会

北海道・札幌市／7月31日

大会テーマ

「一人ひとりの『こどもがまんなか』をまもる質の高い幼児教育を」

～社会全体でつむぎ未来へつなぐために～

北海道は広域のため、全道型の教研大会の他に北海道内 12 支部を 5 つのブロックに分けた教研大会を実施しています。本年度もテーマを（一財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の令和 6・7 年度の研究課題『1 人ひとりの「こどもがまんなか」をまもる質の高い幼児教育を～社会全体でつむぎ未来へつなぐために～』を研修主題として取り組んでいます。

令和 7 年度の北海道地区教育研究大会全体会は昨年引き続きホテル札幌ガーデンパレスにて開催されました。新型コロナウイルス感染症の発生以降、オンライン生配信を併用しての実施が中心でしたが、新たなこころみとして「オンデマンド配信」（録画した講義映像を後日配信）を中心とした講演スタイルに取り組んでいます。

7 月 31 日（木）に行われた全体会には、基調講演講師として洗足こども短期大学幼児教育保育科教授・井上眞理子先生をお招きし「持続可能な保育の質を支える保育者の専門性とは何か～一人ひとりの“良さ”を活かし、組織力で実現する保育」をテーマにご講演をいただきました。経験年数や役職を問わず、すべての保育者が自分自身の「良さ」や「特性」を活かして活躍し合えるためにはどうすればよいか、チームで保育をつくるという視点から専門性、関係性、組織力に焦点をあてて、持続可能な保育の質が高まる組織のあり方について、参加者一人ひとりが真剣に考える素晴らしい時間となりました。

参加人数は例年にならい基調講演会場 500 名、分科会を 80 名から 120 名を上限として 5 分科会を設定しました。基調講演に加え 3 つの分科会においては「オンデマンド」も実施しています。[第 1 分科会 天使大学・学長・二宮信一先生 インクルーシブ教育を見据えた幼児教育を考える（オンデマンド併用）][第 2 分科会 藤女子大学・ウェルビーイング学部・子ども教育学科 教授 小山和利先生 日常の幼児教育及び保育を「子どもの人権」の視点

から考察する（オンデマンド併用）][第 3 分科会 北海道文教大学・人間科学部・こども発達学科 准教授 渡邊堯宏先生][第 4 分科会 札幌スポーツ＆メディカル専門学校・講師／管理栄養士 松井初美先生 食べる力を育てる！笑顔の食育レッスン～子どもたちと始める健康習慣の第一歩！（オンデマンド併用）][第 5 分科会 北翔大学及び藤女子大学・非常勤講師／北海道教育委員会教育アドバイザー 山田克己先生]

申込者は全体で 1483 名にのぼり、特にオンデマンド視聴での申込者数は会場参加者の約 2 倍となりました。例年より多くの皆さまが無理なく参加できるよう試行錯誤を繰り返しているところではありますが、認定こども園では保育があるためリアルタイム視聴が難しい、急な体調不良により会場参加をキャンセルせざるを得なかった、などの事態にも柔軟に対応できるオンデマンド視聴については一定の成果を確認することができたと考えています。

今年度の教育研究大会前日にはロシア・カムチャツカ地方で大きな地震が発生し、北海道沿岸地域には津波警報が発出されたことで大会運営に大きな影響がありました。そのような中でも、ご講義いただいた講師の皆さまをはじめ、一般参加の皆さま、送り出していただいた園関係者の皆さまに多くのご協力をいただけたことで無事に開催することが叶いました。この場をお借りしまして、改めて心より感謝申し上げます。

日々、保育者への要求は高まり、我々はその要求にしっかりと応えていかなければいけません。一つひとつの研修が、保育者の皆さまにとって学びを深めるきっかけとなりますよう、今後も現場に寄り添った研修を開催できるよう研鑽して参りたいと思います。

（（公社）北海道私立幼稚園協会教育研究委員長、網走市・学校法人光輪学園認定こども園網走幼稚園 理事長・園長／大林 晃）

大会テーマ

「一人ひとりの『こどもがまんなか』をまもる質の高い幼児教育を」

～社会全体でつむぎ未来へつなぐために～

7月23日（水）～24日（木）気温35度に近い猛暑の中、令和7年度の東京地区教育研究大会が市ヶ谷・私学会館において開催され、都内各地区から424名（対面）・237名（オンデマンド）の参加者が集いました。

1学期終了後とはいえ、夏期保育・預かり保育を実施している園や夏休みもない園も多いため、需要が増加しているオンデマンドの配信は継続しながらも、対面型だからこそ学べる機会を変わらずに充実させるため、たくさんの講師・教研委員の先生方にご協力いただきました。

開会式では全日本私立幼稚園連合会・尾上正史会長と東京都生活文化局・井上直私学部長から、現場の先生たちへ期待のお言葉を込めてご挨拶いただきました。また、永年勤続表彰者代表として元都私幼連会長・北條泰雅先生にご登壇いただきました。謝辞の中で「幼稚園を守っていく者としての心構え」についても語っていただき、身の引き締まる思いでした。

開会式に引き続き、（一財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構・安家周一先生に「保育の地平へ～私たちの教育・保育の目的は何でしたっけ？～」と題して基調講演をいただきました。ご講演を聴いて、予測困難な時代に向かう今、改めて乳幼児教育をしっかりと勉強し、実践することの責任感を感じました。

続いては、聖心女子大学名誉教授の河邊貴子先生から「遊びが育つ保育」を演題に、「遊びを中心とした保育の現状と課題」「豊かな遊びの捉え方」「実践を見返す視点」等についてご講演いただきました。子どもを理解し必要な環境を整えるための具体的な手立てを学び、特に「“あそび”が幸せに生き抜いていくウェルビーイングの土台を作り、その子の人生を支える」というお言葉が印象に残りました。

1日目の最後は、記念講演としてピアニスト・戸室玄先生による演奏をお聴きしました。都内私立幼稚園を卒園された戸室先生の幼稚園時代の思い出や今でも続く幼稚園との関わりをお話に織り交ぜながら、5曲のピアノ曲を演奏してくださいました。曲のご紹介にも先生のお人柄が現れ、大変優雅な時間を楽しむことができました。

2日目は学年ごとの発達等、7つのテーマに分かれて分科会を開催しました。どの分科会も語り合いの場を設け、同じ課題を持った先生方同士で盛り上がり、対面開催ならではの学びを深めることができました。

■第1分科会、「はじめの100か月の育ちビジョンから考える2歳児の保育～こどもも大人も安心して幸せに生きるために～」井桁容子先生（非常利団体コドモノミカタ代表理事）

■第2分科会、「3歳児の遊びと学び～環境から楽しいこと悩んでいることを考える～」岩田恵子先生（玉川大学教育学部乳幼児発達学科教授）

■第3分科会、「『自分たち』への信頼を築いていく4歳児～事例を通して4歳児の遊びと生活を考える～」利根川彰博先生（こども教育宝仙大学教育学部准教授）

■第4分科会、「5歳児の姿から小学校接続を考える～探求する心を育む保育～」吉永安里先生（國學院大學人間開発学部子ども支援学科教授）

■第5分科会、「特別な支援を必要とする子どもの理解と対応～保育者だからこそできる、その子の“いま”が豊かになる援助とは～」宮崎豊先生（玉川大学教育学部乳幼児発達学科教授）

■第6分科会、「レジャ・エミリア アプローチから考える「子どもの表現～「問い」と「対話」による学びの環境づくりの実践～」津田純佳先生（アトリエリスタ、みりおらーれ代表）

■第7分科会、「子育て支援を考える～子どもの育ちを支える「親の育ち」をどう支えるか～」坂上裕子先生（青山学院大学教育人間科学部心理学科教授）

11団体のポスター発表では日々の保育の成果を分かち合い、大変活気のある空間となりました。

多忙な時代、研修会への参加が難しくなっていますが、子どもたちのために研鑽を積みたいという現場の先生方の気持ちは満ち溢れ、会場は熱気に包まれました。講師の先生方の幼児教育に対する思いを肌で感じ、多いに刺激を受けた2日間の研修会。無事に終えることができ、心より感謝申し上げます。（東京都私立幼稚園連合会教育研究委員長、大田区・光明幼稚園／杉本育美）

大会テーマ

「一人ひとりの『こどもがまんなか』をまもる質の高い幼児教育を」

～社会全体でつむぎ未来へつなぐために～

去る7月24日（木）、奈良県において「第39回近畿地区私立幼稚園教員研修大会 奈良大会」を開催しました。本大会には、近畿6府県から1,500名を超える先生方が参加申込をされ、幼児教育の未来を共に考える大規模な研修の場となり、学びを深める一日となりました。

【開会式】

全日本私立幼稚園連合会 会長 尾上正史先生、（一財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 理事長 安家周一先生、奈良県知事代理 こども・女性局長 畑澤靖子様、奈良市長 仲川元庸様、そして全日本私立幼稚園連合会近畿地区会 会長 山中真介先生にご臨席賜りました。また、永年勤続表彰（代表受賞：育成幼稚園 安井幸子先生）、前年度開催地である京都大会への感謝状贈呈、次年度開催地のご挨拶をいただき、参加者一同の温かな拍手に包まれる中、盛大に大会の幕が開きました。

【記念講演】

一般社団法人家族・保育デザイン研究所 代表理事 汐見稔幸先生をお招きし、「AIそしてVUCAの時代における人間のしあわせについて」と題してご講演いただきました。

汐見先生は、急速に変化する時代において、幼児期から「本音で関わる人間関係」や「共に遊び・共に作る体験」を大切にすることが子どもの成長に不可欠であると語られました。文明と文化のバランスを保ちながら、子どもたちが幸せに生きる力を育むことこそ、これからの教育・保育に求められる姿であると示され、参加者一同深い学びを得ました。

【分科会】

近畿各府県・奈良県の先生方による7つの分科会を実施いたしました。

■第1分科会 兵庫県

誰でもできる！園の保育の質向上につながる自己評価の方法～KPT法を用いた振り返り 兵私幼モデルを参考に～

■第2分科会 滋賀県

友だち同士の関わり体験から、自己発揮できる子を

目指して～保育教諭の見守りと援助によって～

■第3分科会 大阪府

多様な子どもたちが、つながり合う保育をめざして～子ども同士のつながりはどのようにして育まれるのか～

■第4分科会 和歌山県

インクルーシブな保育を目指し、共に育ち合うという視点での保育実践～他者を尊重する大切さや思いやりの気持ちを育む保育を～

■第5分科会 京都府

クラス活動の枠を超えた自由遊び「たのしみデー」の取り組み～幼児教育における見かた・考え方を働かせる環境構成の園内ミーティング報告～

■第6分科会 奈良県

気になる子どもを中心とし、就学に向けてできること

～子どもにも教職員にも優しいスモールステップを通して～

■第7分科会 奈良県（設置者・園長対象）

保育の質を保育スケールを通して可視化し、より良い保育実践へつなげる～なんとなくをひとつひとつ見直そう～（講師：大阪総合保育大学 埋橋玲子氏）

【まとめ】

コロナ禍を経て教育・保育の在り方が大きく変化した今、改めて子どもたちの未来を見据え、今できることを共に学び合う貴重な機会となりました。

近畿地区では前年開催京都大会より、対面研修とオンデマンド研修を取り入れ、多様な参加スタイルを実現しました。奈良大会では1,500名を超える先生方がそれぞれの学びを深め、日々の実践へとつなげる大きな契機となりました。

今回の大会を通して、改めて「近畿は一つ」であることを実感しています。

これからも、子ども一人ひとりの「こどもがまんなか」を大切にしながら、私たちが手を取り合い、社会全体で未来へつなぐ幼児教育を共に紡いでまいります。

（奈良大会実行委員長、奈良県私立幼稚園連合会研究部長、斑鳩町・法隆寺幼稚園／上田尚史）

大会テーマ 「今こそ！こどもがまんなか」

令和7年度東海北陸地区教育研究石川大会が、7月31日（木）、8月1日（金）に岐阜市の「ぎふしんフォーラム（岐阜市民会館）」を主会場として開催されました。

こどもがまんなかについて

「こどもがまんなかプロジェクト」を進める中で、社会は少子化や環境の変化が続く現状にあります。私たちの目指す「こどもがまんなか」を見つめなおすことを含め、子どもの育ちに必要なことは何かを、この研究大会で学び、研究を議論、情報を共有して、私たち保育者が質の高い幼児教育の実践に向けた大会としたいと、このテーマを掲げました。夏の預かり保育のある中、対面参加者約1,250名、オンデマンドで約320名と東海北陸地区8県の幼稚園、認定こども園の先生方が参加しました。

全体会（1日目）

開会式に先立ち、オープニングステージでは、岐阜県立岐阜高等学校書道部が大会テーマ「今こそ！こどもがまんなか」を大きな紙に力強く書き上げてくれました。その作品には大会テーマ文字の下に、園の先生方へのサプライズメッセージが書かれており、会場を感動に包みました。続いて、美濃加茂高等学校バトントワリング部、マーチングバンドが若さいっぱいの演技と演奏で、会場にいる8県の先生方が音楽と踊りで一体となり、笑顔いっぱいの明るい岐阜大会の雰囲気を作ってくれました。

開会式では、新地区会長の畠山遵会長、藤本明弘全日本私立幼稚園連合会副会長、宮下友美恵（一財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構副理事長よりご挨拶をいただき、続いて功労者表彰、永年勤続表彰を行いました。また、江崎禎英岐阜県知事、小原尚岐阜県議会議長、柴橋正直岐阜市長から大会開催へのご祝辞をいただきました。

基調講演は、岐阜市立長良東小学校長・元文部科学省幼児教育課専門官の中村有希先生に「幼児教育はとても大切！～すべては子どもたちのために～」と題して、今一度、学校教育法や小学校学習指導要領を確認し、小学校の現状やスタートカリキュラムの導入と成果を紹介いただくと共に、幼児教育が教育の基礎であることを強調されました。

記念講演は、フリーアナウンサーの浅井彰子氏と打楽器奏者の松尾志穂子氏より、「よりそいつつ、はぐくみつつ」と題して、8冊の絵本と詩をマリンバの深く豊かな響きに合わせて読み聞かせをしていただきました。絵本から子どもの発達の姿、子育ての苦労、絵本の主人公の気持ちに共感するなど絵本を味わう講演をしていただき、マリンバ演奏では松尾氏ご自身の作曲による独奏曲「疾走」を聴かせていただき感動の講演となりました。

分科会（2日目）

「今こそ！こどもがまんなか」を研究テーマとして、10分科会が岐阜市内の5会場に分かれて行われました。第9分科会では「ECEQ[®]を活用し、公開園の良さと課題を明らかにしよう」をテーマにこぼと西幼稚園で討議と活発な意見交換が行われました。また、第10分科会では設置者や園長先生を対象に、今後の園運営の諸課題について議論されました。

PTA大会（2日目）

PTA大会では、「ゆたかな感性を育てましょう」をテーマに、第一部では岐阜県交響楽団アンサンブルユニット「ミューズ・コンセール」による親子音楽鑑賞教室、第二部ではフリーアナウンサーの浅井彰子氏・打楽器奏者の松尾志穂子氏による「声あそび・音あそび～あかね、たんたかたん～」の講演を行いました。様々な楽器の演奏や絵本の読み聞かせを間近で体験し、参加された親子が楽しい時間を過ごしました。

終わりに

変化の激しい社会にあっても、子どもたちの純粋で人が好きな姿は変わりません。岐阜大会のメッセージは、日々子どもと接する保育者同士がお互いに思いを一つにして大会に臨めるように作りました。その願い通り、子どもが安心して育つ環境を共につくる意義を確認できた大会となりました。開催県として学びも多く、充実した2日間の大会となりました。ありがとうございました。

（（一社）岐阜県私立幼稚園連合会 教育研究委員長、岐阜市・はなぞの幼稚園／春日千夏）

令和 7 年度 振興資料集

○令和 7 年度学校基本調査速報概要

幼稚園の現状

区 分		全 体		国 立		公 立		私 立	
		総 数	割 合	総 数	割 合	総 数	割 合	総 数	割 合
幼稚園数		8,225	100%	47	0.6%	2,354	28.6%	5,824	70.8%
学 級 数		39,971	100%	210	0.5%	5,903	14.8%	33,858	84.7%
園 児 数	3 歳児	210,263	100%	1,039	0.5%	18,045	8.6%	191,179	90.9%
	うち 満 3 歳児	66,632	100%	0	0.0%	345	0.5%	66,275	99.5%
	4 歳児	224,541	100%	1,390	0.6%	25,053	11.2%	198,098	88.2%
	5 歳児	254,766	100%	1,487	0.6%	32,427	12.7%	220,852	86.7%
	計	689,570	100%	3,916	0.6%	75,525	11.0%	610,129	88.5%
本務教員数		80,201	100%	343	0.4%	11,801	14.7%	68,057	84.9%

注) 出典：文部科学省「令和 7 年度学校基本調査速報」（令和 7 年 8 月 27 日現在）
※満 3 歳児の園児数は、前年度間に入園した令和 3 年 4 月 2 日～令和 4 年 4 月 1 日生まれの園児数である。
※幼保連携型認定こども園数の園数等は含まない。

幼稚園の園数等の推移

区 分	幼稚園数 (A)	うち私立 幼稚園数	在 園 児 数					教員数 (本務者) (C)	本務教員 1 人あたり 園児数 (B / C)	幼 稚 園 修了者数	小学校及び義務 教育学校第 1 学年児童数に 対する幼稚園 修了者数の比率
			計 (B)	3 歳児	4 歳児	5 歳児	うち 私立幼稚園 の在園児数				
年度 平成 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 令和元 2 3 4 5 6 7	園	園	人	人	人	人	人	人	人	人	%
	15,006	8,737	1,948,868	323,776	753,856	871,236	1,551,042	102,279	19.1	903,948	64.1
	14,958	8,704	1,907,110	322,763	741,745	842,602	1,520,513	102,828	18.5	872,061	63.8
	14,901	8,657	1,852,183	326,610	703,245	822,328	1,474,661	103,014	18.0	841,978	63.5
	14,856	8,639	1,808,432	341,515	689,807	777,110	1,439,992	102,992	17.6	822,209	63.2
	14,790	8,601	1,798,051	346,675	693,668	757,708	1,431,056	103,518	17.4	777,675	62.8
	14,690	8,556	1,789,523	350,401	682,115	757,007	1,422,090	103,839	17.2	785,467	62.5
	14,603	8,524	1,786,129	371,308	673,089	741,732	1,419,452	104,687	17.1	757,660	62.3
	14,527	8,497	1,778,286	358,093	691,828	728,365	1,410,817	105,048	16.9	741,362	61.6
	14,451	8,479	1,773,682	370,237	656,806	746,639	1,402,942	106,067	16.7	728,334	61.1
	14,375	8,443	1,753,422	381,798	664,732	706,892	1,385,641	106,703	16.4	747,154	60.6
	14,279	8,410	1,769,096	398,626	657,316	713,154	1,399,011	108,051	16.4	707,642	59.9
	14,174	8,389	1,760,494	400,243	658,631	701,620	1,392,640	108,822	16.2	712,935	59.3
	14,061	8,363	1,753,393	410,228	642,804	700,361	1,389,997	109,806	16.0	702,255	58.9
	13,949	8,354	1,738,766	420,343	637,554	680,869	1,383,249	110,393	15.8	700,745	58.4
	13,835	8,317	1,726,520	423,770	629,348	673,402	1,377,688	110,807	15.6	682,082	57.7
	13,723	8,292	1,705,402	428,928	613,556	662,918	1,367,723	111,239	15.3	672,925	57.2
	13,626	8,276	1,674,172	427,148	602,112	644,912	1,349,247	111,228	15.0	662,911	56.7
	13,516	8,261	1,630,336	415,991	584,228	630,117	1,318,006	110,692	14.7	644,771	56.4
	13,392	8,236	1,605,912	435,457	559,513	610,942	1,304,966	110,580	14.5	631,221	56.2
	13,299	8,226	1,596,170	443,750	570,750	581,670	1,303,803	110,402	14.5	611,036	55.7
	13,170	8,197	1,604,225	442,508	566,985	594,732	1,314,968	110,836	14.5	584,417	55.1
	13,043	8,177	1,583,610	440,512	554,321	588,777	1,303,661	111,111	14.2	595,976	54.8
	12,905	8,142	1,557,461	441,834	540,560	575,067	1,287,284	111,059	14.0	590,632	54.2
	11,674	7,304	1,402,448	398,054	488,412	515,982	1,158,902	101,497	13.8	578,804	53.5
	11,252	7,076	1,339,761	384,109	460,583	495,069	1,111,301	99,957	13.4	518,301	48.5
	10,878	6,877	1,271,918	370,274	435,782	465,862	1,061,835	97,840	13.0	496,269	46.7
	10,474	6,688	1,207,884	357,309	411,642	438,933	1,015,792	95,592	12.6	467,594	44.8
	10,069	6,538	1,145,574	342,213	389,868	413,493	972,294	93,593	12.2	439,919	42.6
	9,698	6,398	1,078,496	320,701	366,833	390,962	927,896	91,785	11.8	414,932	40.7
	9,418	6,266	1,008,815	301,036	336,752	371,027	875,379	90,140	11.2	392,755	39.0
	9,121	6,152	923,089	273,080	310,838	339,171	807,572	87,761	10.5	371,564	37.2
	8,837	6,044	841,795	247,094	281,131	313,570	739,416	71,437	11.8	340,610	35.4
	8,531	5,950	757,880	220,917	252,930	284,033	669,051	82,809	9.2	—	—
	8,225	5,824	689,570	210,263	224,541	254,766	610,129	80,201	8.6	—	—

注) 出典：文部科学省「学校基本調査」。令和 7 年度は速報値。3 歳児には満 3 歳児入園者を含む。
※令和 6 年度以降「幼稚園修了者数」速報値は未掲載。確定値のみ 12 月頃掲載予定。
※幼保連携型認定こども園の園数等は含まない。

3歳児教育の普及状況の推移

区 分	幼 稚 園 数				在 園 児 数				3 歳 児 在 園 児 数			
	計	国 立	公 立	私 立	計	国 立	公 立	私 立	計	国 立	公 立	私 立
平成4年度	15,006	49	6,220	8,737	1,948,868	6,613	391,213	1,551,042	323,776	1,032	7,037	315,707
5	14,958	49	6,205	8,704	1,907,110	6,740	379,857	1,520,513	322,763	1,102	8,424	313,237
6	14,901	49	6,195	8,657	1,852,183	6,786	370,736	1,474,661	326,610	1,119	10,838	314,653
7	14,856	49	6,168	8,639	1,808,432	6,778	361,662	1,439,992	341,515	1,120	13,236	327,159
8	14,790	49	6,140	8,601	1,798,051	6,827	360,168	1,431,056	346,675	1,124	15,784	329,767
9	14,690	49	6,085	8,556	1,789,523	6,803	360,630	1,422,090	350,401	1,132	17,957	331,312
10	14,603	49	6,030	8,524	1,786,129	6,823	359,854	1,419,452	371,308	1,167	21,339	348,802
11	14,527	49	5,981	8,497	1,778,286	6,911	360,558	1,410,817	358,093	1,181	23,804	333,108
12	14,451	49	5,923	8,479	1,773,682	6,889	363,851	1,402,942	370,237	1,207	28,131	340,899
13	14,375	49	5,883	8,443	1,753,422	6,819	360,962	1,385,641	381,798	1,188	33,270	347,340
14	14,279	49	5,820	8,410	1,769,096	6,804	363,281	1,399,011	398,626	1,203	36,867	360,556
15	14,174	49	5,736	8,389	1,760,494	6,718	361,136	1,392,640	400,243	1,229	39,307	359,707
16	14,061	49	5,649	8,363	1,753,393	6,626	356,770	1,389,997	410,228	1,210	41,311	367,707
17	13,949	49	5,546	8,354	1,738,766	6,572	348,945	1,383,249	420,343	1,217	42,800	376,326
18	13,835	49	5,469	8,317	1,726,520	6,531	342,301	1,377,688	423,770	1,237	43,082	379,451
19	13,723	49	5,382	8,292	1,705,402	6,457	331,222	1,367,723	428,928	1,270	42,987	384,677
20	13,626	49	5,301	8,276	1,674,172	6,374	318,551	1,349,247	427,148	1,265	42,702	383,181
21	13,516	49	5,206	8,261	1,630,336	6,315	306,015	1,318,006	415,991	1,278	42,104	372,609
22	13,392	49	5,107	8,236	1,605,912	6,215	294,731	1,304,966	435,457	1,310	43,436	390,711
23	13,299	49	5,024	8,226	1,596,170	6,044	286,323	1,303,803	443,750	1,308	43,663	398,779
24	13,170	49	4,924	8,197	1,604,225	5,930	283,327	1,314,968	442,508	1,291	43,451	397,766
25	13,043	49	4,817	8,177	1,583,610	5,785	274,164	1,303,661	440,512	1,292	42,599	396,621
26	12,905	49	4,714	8,142	1,557,461	5,614	264,563	1,287,284	441,834	1,259	42,315	398,260
27	11,674	49	4,321	7,304	1,402,448	5,510	238,036	1,158,902	398,054	1,288	38,438	358,328
28	11,252	49	4,127	7,076	1,339,761	5,394	223,066	1,111,301	384,109	1,324	37,107	345,678
29	10,877	48	3,952	6,877	1,271,918	5,288	204,795	1,061,835	370,274	1,265	35,668	333,341
30	10,474	49	3,737	6,688	1,207,884	5,330	186,762	1,015,792	357,309	1,345	35,052	320,912
令和元年度	10,069	49	3,482	6,538	1,145,574	5,243	168,037	972,294	342,213	1,260	33,104	307,849
2	9,698	49	3,251	6,398	1,078,496	5,114	145,486	927,896	320,701	1,224	29,062	290,415
3	9,418	49	3,103	6,266	1,008,815	4,902	128,534	875,379	301,036	1,253	27,244	272,539
4	9,121	49	2,920	6,152	923,089	4,751	110,766	807,572	273,080	1,214	23,921	247,945
5	8,837	49	2,744	6,044	841,795	4,490	97,889	739,416	247,094	1,157	21,336	224,601
6	8,531	47	2,534	5,950	757,880	4,070	84,759	669,051	220,917	1,038	18,745	201,134
7	8,225	47	2,354	5,824	689,570	3,916	75,525	610,219	210,263	1,039	18,045	191,179

注）出典：文部科学省「学校基本調査」。令和7年度は速報値。3歳児には満3歳児入園者を含む。
 ※幼保連携型認定こども園等は含まない。

幼保連携型認定こども園の園数等

区 分		全 体	公 立	私 立
園 数		7,674	1,067	6,606
学 級 数		32,575	4,638	27,932
園 児 数	0 歳	31,054	2,770	28,284
	1 歳	103,305	10,728	92,577
	2 歳	123,547	13,599	109,942
	3 歳	202,714	23,922	178,762
	4 歳	203,232	25,286	177,917
	5 歳	212,178	27,466	184,685
	計	876,030	103,771	772,167
本務教員数		157,314	18,285	139,019

注）出典：文部科学省「令和7年度学校基本調査速報」（令和7年8月27日現在）

■都道府県別幼稚園の現状

区 分		幼稚園数				在園児数（１）			
		計	国立	公立	私立	計	国立	公立	私立
1	北海道	307	2	29	276	23,921	93	721	23,107
2	青森	80	1	1	78	2,629	37	2	2,590
3	岩手	53	1	16	36	2,342	42	303	1,997
4	宮城	186	1	50	135	14,946	99	1,289	13,558
5	秋田	31	1	1	29	1,449	42	20	1,387
6	山形	51	1	8	42	3,295	69	312	2,914
7	福島	186	1	93	92	10,793	63	3,162	7,568
8	茨城	176	1	67	108	12,944	78	2,244	10,622
9	栃木	69	1	—	68	5,965	121	—	5,844
10	群馬	97	1	48	48	5,081	121	1,412	3,548
11	埼玉	471	1	37	433	57,557	76	1,397	56,084
12	千葉	426	1	59	366	47,612	139	1,822	45,651
13	東京	936	2	148	786	90,697	355	6,004	84,338
14	神奈川	590	0	31	559	69,773	0	923	68,850
15	新潟	58	2	15	41	2,338	82	339	1,917
16	富山	24	1	6	17	1,215	65	126	1,024
17	石川	37	1	—	36	2,578	72	—	2,506
18	福井	58	1	44	13	659	97	140	422
19	山梨	53	1	2	50	2,717	66	84	2,567
20	長野	89	1	7	81	6,481	73	230	6,178
21	岐阜	119	0	33	86	13,487	0	1,588	11,899
22	静岡	306	1	158	147	19,022	60	4,737	14,225
23	愛知	370	1	46	323	45,927	133	2,851	42,943
24	三重	124	1	80	43	8,348	79	2,193	6,076
25	滋賀	104	1	87	16	6,276	87	5,199	990
26	京都	178	1	36	141	13,985	89	1,555	12,341
27	大阪	495	1	172	322	53,516	139	7,482	45,895
28	兵庫	391	2	214	175	28,778	176	7,828	20,774
29	奈良	123	1	85	37	6,596	131	3,049	3,416
30	和歌山	58	0	31	27	3,079	0	569	2,510
31	鳥取	17	1	3	13	1,221	28	109	1,084
32	島根	68	1	59	8	1,184	52	1,005	127
33	岡山	160	1	129	30	7,989	109	4,041	3,839
34	広島	194	1	64	129	13,258	102	820	12,336
35	山口	146	1	22	123	9,476	72	268	9,136
36	徳島	81	1	71	9	3,192	130	2,387	675
37	香川	100	1	66	33	5,727	116	2,024	3,587
38	愛媛	105	1	37	67	6,942	74	681	6,187
39	高知	32	1	8	23	1,853	55	251	1,547
40	福岡	389	1	17	371	40,665	44	665	39,956
41	佐賀	40	1	3	36	2,186	35	55	2,096
42	長崎	93	1	17	75	5,281	78	211	4,992
43	熊本	95	1	20	74	5,981	82	522	5,377
44	大分	116	1	64	51	5,016	115	1,039	3,862
45	宮崎	85	1	8	76	3,928	74	111	3,743
46	鹿児島	121	1	54	66	6,308	66	862	5,380
47	沖縄	137	0	108	29	5,357	0	2,893	2,464
総計（全国）		8,225	47	2,354	5,824	689,570	3,916	75,525	610,129

注）出展：文部科学省「令和７年度学校基本調査」（令和７年８月２７日現在）

※前年度間入園の在園児数は、令和６年度間に満３歳児入園した人数。

※幼保連携型認定こども園の園数等は含まない。

在園児数（２）				教員数（本務者）			
３歳	左記のうち 前年度間 入園（内数）	４歳	５歳	計	国立	公立	私立
7,408	3,220	7,687	8,826	3,641	9	194	3,438
817	484	877	935	593	6	3	584
664	276	744	934	374	6	78	290
4,458	1,272	4,911	5,577	1,791	7	284	1,500
446	201	464	539	315	6	4	305
988	424	1,121	1,186	579	6	48	525
3,133	868	3,688	3,972	1,333	4	410	919
3,735	1,310	4,341	4,868	1,601	6	384	1,211
1,815	854	1,938	2,212	872	7	—	865
1,605	775	1,617	1,859	903	10	290	603
17,819	4,652	18,703	21,035	5,363	5	215	5,143
14,454	3,293	15,666	17,492	4,487	7	323	4,157
27,553	6,090	29,492	33,652	9,774	22	832	8,920
21,548	5,021	22,702	25,523	7,206	0	141	7,065
694	374	768	876	479	10	81	388
392	199	403	420	207	8	24	175
822	520	807	949	500	8	—	492
194	86	203	262	167	9	55	103
838	367	899	980	471	7	14	450
2,057	793	2,122	2,302	847	9	35	803
4,353	1,925	4,294	4,840	1,500	0	251	1,249
5,852	2,146	6,267	6,903	2,413	7	883	1,523
14,564	4,808	14,925	16,438	4,019	13	313	3,693
2,654	820	2,631	3,063	962	7	370	585
1,908	37	1,998	2,370	786	8	655	123
4,361	2,069	4,498	5,126	1,750	7	196	1,547
16,413	3,774	17,612	19,491	5,939	8	1,082	4,849
8,374	1,652	9,510	10,894	3,415	16	1,051	2,348
1,947	376	2,157	2,492	853	8	474	371
979	421	1,012	1,088	396	0	138	258
392	226	367	462	205	6	12	187
320	34	394	470	291	7	256	28
2,419	563	2,604	2,966	1,018	8	531	479
4,000	1,791	4,406	4,852	1,617	11	192	1,414
3,066	1,587	3,016	3,394	1,333	6	93	1,234
378	104	1,282	1,532	502	7	400	95
1,761	659	1,863	2,103	781	7	319	455
2,239	1,202	2,267	2,436	916	9	139	768
599	192	606	648	267	7	38	222
12,767	6,526	13,196	14,702	4,888	7	100	4,781
685	335	687	814	330	6	12	312
1,619	879	1,749	1,913	893	7	59	827
1,892	977	1,967	2,122	841	9	107	725
1,255	521	1,424	2,337	737	8	185	544
1,202	819	1,289	1,437	677	7	18	652
1,973	871	2,035	2,300	720	5	149	566
851	239	1,332	3,174	649	0	363	286
210,263	66,632	224,541	254,766	80,201	343	11,801	68,057

『知っていますか？生活の中の子どもの権利』 2024 年 7 月発行版 引き続きお申込み頂けます！

「知っていますか？生活の中の子どもの権利」2024 年 7 月発行版小冊子につきまして、引き続き、ご注文を承っております。

「子どもの権利条約」を、保護者や教職員の方々にわかりやすく、やさしく解説した小冊子です。
QR コード、もしくは URL より申し込み用紙 (Excel) をご確認ください、申し込み用紙記載のメールアドレス (info@youchien.com) までお申込みください。

注文に行き違いが無いよう、必ずメールでのお申込みをお願いいたします。

< URL >

<https://zennichishiyouren.com/data/file.xlsx>

【QR コード】



最先端のAIで変わる、革新的な園運営
様々な書類作成に AI のちからを

保育
月案や日案、
お便りに関しての
アドバイスをいたします

経営
保護者への対応や
経営に関する
アドバイスをいたします

会計
仕分け等会計に
係るアドバイスを
行います

描画
AIがイラストの
作成をします

栄養
アレルギーや献立
などのアドバイス
をいたします

チャイルド社 出版書籍が AI データに搭載

園と先生のための
チャイルド AI

株式会社 **チャイルド社** コンピュータ部
〒167-0052 東京都杉並区南荻窪 3-31-18
ホームページ: <https://www.child.co.jp/>



遊具: HOUSE

未来は、あそびの中に。

偉大なる発明も、世界を変えた公式も、
あそびから生まれた。

あそびは、すべての創造の源です。

あそび力を伸ばすことは、未来を切り拓くこと。
創造力をのばす。共感力をはぐくむ。ルールをまなぶ。
あそびから、こどもは無限の力を羽ばたかせていく。

あそびの環境に、あざやかな驚きを。

私たちは、未来をつくる仕事です。



こども誰でも通園制度のしくみについて

認定こども園委員会

委員 庄子 拓彦

今回の認定こども園通信では、こども誰でも通園制度について、おさらいをしていきます。

○ 事業の目的

全てのこどもの育ちを応援し、こどもの良質な成育環境を整備するとともに、全ての子育て家庭に対して、多様な働き方やライフスタイルにかかわらない形での支援を強化するため、月一定時間までの利用可能枠の中で、就労要件を問わず時間単位等で柔軟に利用できる乳児等通園支援事業「こども誰でも通園制度」として創設されました。また、「保護者の立場からの保育の必要性」に対応するものとは異なり、こどもを中心に考え、こどもの成長の観点からすべてのこどもたちが「こども誰でも通園制度」を通じて健やかに成長できる環境を作ることを目的として制度化されていきます。

○ 背景

令和7年度は子ども・子育て支援法上の地域子ども地域子ども・子育て支援事業として制度化され、令和8年度からは子ども・子育て支援法に基づく新たな給付として全国の自治体において実施されます。

○ 事業の概要（令和7年度）

【対 象 児 童】 保育所、認定こども園、地域型保育事業所等に通っていない

「0歳6か月～満3歳未満の未就園児」

【実 施 施 設】 保育所、幼稚園、認定こども園、家庭的保育事業所、小規模保育事業所、地域子育て支援拠点、企業主導型保育施設、認可外保育施設、児童発達支援センターなど

【実 施 方 法】 ・一般型：在園児と合同で行う又は、専用室にて独立に行うパターン

・余裕活用型：利用定員の中で空き定員で行うパターン

【利用可能時間】 こども一人あたり「月10時間」を上限とした上で、各施設と利用者の調整にて1日当たりの利用時間を設定できる。

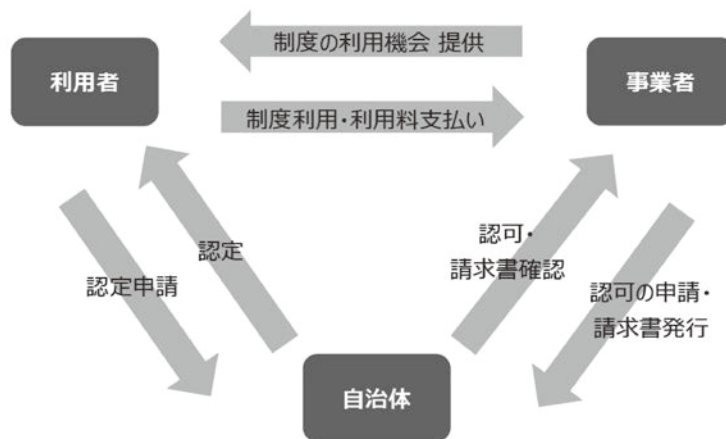
【利 用 料】 1時間あたり300円を標準に園が定めて徴収

令和7年度以降は、こどもの年齢に応じた単価については、年度当初の年齢に応じた単価としています。加えて、障害児、要支援家庭のこども、医療的ケア児を受け入れる場合の加算についても単価を設定されています。（以下※ R7 予算単価表）

	こども一人 1時間当たり単価
0歳児	1,300円
1歳児	1,100円
2歳児	900円
障害児加算	400円
要支援家庭のこども加算	400円
医療的ケア児加算	2,400円

【配置基準】 職員配置基準：一時預かり事業に準拠（1/2 保育士）

○ 利用方法について



※こども家庭庁誰でも通園制度総合支援システム 2025 年 3 月版参照

○ こども誰でも通園制度総合支援システムについて

こども家庭庁が開発・提供しており、今年度から稼働しており、各地方自治体・事業者（園）・利用者に提供して、この制度の利用を円滑に予約管理、データ管理、請求書発行の機能を備えたシステムを構築・運用を図るためのシステムです。令和7年8月段階のシステム利用予定自治体数は、169となっております。なお、システムは国が用意し自治体で管理されるようです。

○ 令和8年度本格実施に向けての動き

① 令和8年度以降の利用可能時間

令和7年度における制度の実施状況、全国的な提供体制の確保状況、保育人材の確保状況等を踏まえ、引き続き検討しています。

② 給付化に伴う公定価格の設定

令和8年度からの給付化に伴い、必要な人材を確保し、しっかりと運営できるものとなるよう公定価格を設定する必要とされていますが検討中です。

③ こども誰でも通園制度の従事者に対する研修

安全性や専門性を担保するため、従事者向けの研修を開発するべきであり、その内容や実施方法について、引き続き検討中です。

④ 市町村による提供体制の整備と広域利用の関係

市町村は子ども・子育て支援事業計画に量の見込みを記載した上で、提供体制を確や広域利用の在り方も含めて整理が必要と検討されています。

⑤ 令和8年度の全国実施に向けた市町村や事業者の準備等

全ての市町村が量・質両面から提供体制を確保等できるよう、こども家庭庁・都道府県による支援が必要と考えています。

○最後に

こども誰でも通園制度について概要とこども家庭庁の動きをまとめてみました。実際に実施している園も多くおられると思いますが、利用方法や管理について各園で利用調整を行っているようです。（仙台市では、まだシステム運用をおこなっていないようなので、手集計で行っているようです）。令和8年度からすべての市町村で実施されます。現状として、課題が多いとお考え足踏みされておられる先生もいらっしゃると思いますが、行政がこの制度の実施園の申込み・選定を終えた後年からの参入が難しくなることも想定されます。給付化に伴い、途中で参入ができなくなる可能性もゼロではないとも考えられます。つまり実施の意向だけでも示しておくことも必要ではないかもしれません。

また、満3歳までが対象で、3歳の誕生日後は対象外になるのも注意点の一つです。なぜなら利用認定の1号認定に該当する制度の立て付けとなっています。その後は、1号認定の対象（無償化）となるからです。制度利用後に向けた入園については、事前に保護者との相談が必要となってきますので、この点も気を付けないといけないポイントかもしれません。

実施を検討している園の皆さまは各自治体に一度、相談してみるとよいかもしれません。本格運用前の検討されている園の皆さまの参考になれば幸いです。



～年間連載⑪～

令和7年1月号より、学習院大学文学部教育学科の秋田喜代美教授による年間連載を行っています。「国際的な保育幼児教育の動向」について、SDGsや保育の専門性などにも触れながらの連載となります。乳幼児教育に長年携わっている秋田先生の連載から、幼児教育への理解を深める機会にさせていただきますと幸いです。

「生涯幼稚園」の発想で創造性を育む

学習院大学

文学部教育学科教授 秋田喜代美

1 Lifelong Kindergarten の4つの原則

MIT メディアラボのミッチェル・レズニック教授は、ロゴやスクラッチ等の開発者として世界的に有名なコンピューターサイエンスの研究者です。2025年3月に、コンピューター科学教育の領域で顕著な業績を残した人に与えられる SIGCSE Award for Outstanding Contribution to Computer Science Education (2025) という賞を受賞されました。彼はMIT ラボで「生涯学習幼稚園プロジェクト」という考え方を唱え、lifelong Kindergarten という本を刊行しています。人が生涯創造的であるためには、幼稚園のような状況、そこにある4つの原則が大事だと唱えています。この『生涯学習幼稚園』の本も2018年に PROSE 賞を受賞しています。

そこでいわれている、創造的であるための4つ

の原則とは「Projects, Passion, Peers, Play」であるとしています。プロジェクトとは、それぞれが自分の興味関心にあったプロジェクトに取り組み、そしてそれによって最終的に何かを作り上げたり、問題解決をしたりしています。その過程で友達と考えを交換したりしながらその過程でいろいろな学びをしているというわけです。最近では、日本でも乳幼児期の探究が大事にされ、学習指導要領の幼児教育部分でも、「自ら心身を用いて環境に関わる 体験をしている」段階から、さらに「体験を積み重ねたり関連付けたりすることを通じて、気付いたり考えたりしている」段階、そして「これまでの体験を生かして試行錯誤しながら、探究を行っている」段階へということがいわれ「探究」の語がつかわれていますが、これはプロジェクト的な活動と言えるでしょう。そしてそのためには、遊び、仲間、そして情熱

● 保育と子どものおもしろさを伝え、ワクワクを広げる ●

みんなでつくる園の未来！

保育ナビ

こども・子育て政策が大きく動く今、持続可能な園づくりの役に立つ、「国の動き」「人材育成」「園経営」「保育内容」「子どもの姿ベースの指導計画」「園の多機能化」など必須の情報をお届けします。

＝ B5判 64ページ 定価 1,200円（本体 1,091円＋税 10%） ＝

保育の楽しさ・魅力を
実践事例で紹介！

国の動きを伝え、
持続可能な
園づくりをサポート

本社：〒113-8611 東京都文京区本駒込 6-14-9 <https://www.froebel-kan.co.jp>
ご注文・定期購読のお申し込みは 03-5395-6608 保育事業部 営業支援チームまで

キンダーブックの **フーベル館**

が大事というのうなづけることです。遊びの中に学びがあるというだけではなく、遊びを通して創造性は育まれていくとも、彼の思想からは言えるでしょう。またレズニックは遊びは、「新しいことを試し、リスクを冒し、限界に挑戦する意欲に基づいている」としています。まさに「安心と挑戦の循環」としての豊かな遊びと体験だと言えます。

2 創造的な学びのスパイラル（螺旋）

この創造的なプロセスとして、彼は図1のように創造的な学びのサイクルをえがいています。



図1 創造的な学びのスパイラル

つまり創造的な学びは、想像して、創造して遊び、仲間と共有し、振り返り、そこからさらに想像するというような循環の中で生まれていくということなのです。園での日々の多様な遊びの中でこのような螺旋のサイクルが発展的な遊びの中で生まれていると言えるのではないのでしょうか。遊びの中において、子どもが何を想像しているのか、どんなふりかえりをしているのかはなかなか見えませんが、この点も想像と創造の関係を考える上で大事なことなのではないのでしょうか。生涯幼稚園といえるような幼児教育が急激な変化の中で生涯創造的な人材を育成するのだと思います。

参考文献

ミッチェル・レズニック(著) 130. 村井裕実子・阿部和広 著 酒匂寛 訳『ライフロング・キンダーガーテン 創造的思考力を育む4つの原則』日経BP 2018
宮島衣瑛 2025「生成AI時代の教育と創造性に関する考察」学習院大学 教育学・教育実践論叢 第12号,119-

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に準じた指導計画

月刊 保育とキャリア

毎月2日 発売



ひかりのくに株式会社

本社/〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2-14 TEL.06-6768-1151代表
支社/〒175-0082 東京都板橋区高島平6-1-1 TEL.03-3979-3111代表

「学びの秋」

今年は、北海道も記録的な猛暑となり、札幌でも真夏日が32日観察され観測開始以来の最多を記録しました。9月に入りすっかり暑さも落ち着き現在は秋の到来を迎えています。

北海道にとって秋は学びの季節です。8月末から10月初旬にかけて、道内5ブロックに分けて教育研究大会が行われます。北海道の面積は83424平方キロメートル、日本の総面積の約22%を占めています。このような広大な土地でありますので、より多くの先生方が参加しやすいように5か所に分かれて開催し、対面参加だけではなく基調講演に関してはオンデマンドを併用し、様々な地域の方が学びを深められるよう工夫もしています。また、ブロック毎に公開保育も開催しています。今年は、全ブロックを合わせて79園が保育を公開し、他園や他の保育者から多様な視点や実践例を得たり、自園の強みや改善点を客観的に把握する事で日々の保育を見直し、保育の質を向上させる場としています。

北海道における少子化の課題は、全国的な少子化の流れと共通する部分に加えて、広大な地域特性や人口構造の特徴によってより深刻化・複雑化している点があります。合計特殊出生率は1.01となっており、全国平均と比べても非常に低くなっています。しかしながら、このような少子化社会だからこそ、幼児教育施設は「子どもの権利保障」「保護者・地域の支援」「社会の持続可能性」に直結する役割を果たします。そのためにも、さまざまな課題に対応しながら、幼稚園・認定こども園を支える団体として今後もこのような取り組みが必要だと思っています。

(北海道私立幼稚園協会・広報委員長、札幌市・白石幼稚園／太田真理)

「子どもたちを護るのは大人の責任」

本園が幼児教育を開始してから60年、私自身もこの園に携わり21年目を迎えます。変化に富む日々の中で最も印象的だったのは、平成28年に幼稚園から幼保連携型認定こども園へ移行したことです。建学以来の教育の質を守りつつ、0歳から就学前まで全ての子どもに年齢に応じた教育を提供する——その決意で始めました。10年を経た今、当初は2割に満たなかった2号・3号児が6割を占め、幅広い保護者のニーズに応えられる園となりました。安定した収入基盤は職員の待遇改善につながり、それが教育・保育の質をさらに高めています。

移行当初から重視したのは、子ども・保護者・職員にとってのよりどころでした。そこで掲げたのが「態度教育」です。「食」を中心に「智・徳・体」を柱とし、体験を通じて生きる力を育む方針です。認定区分の多様性が増した今も生活態度の教育は共通であり、成果も広がっています。災害やパンデミックなど予測不能な時代にあっても、子どもたちには様々な体験を重ね、たくましく生き抜いてほしいと願っています。

近年は世界各地で紛争が起こり、教育環境を奪われる子どもが増えています。子どもこそ人類の未来を託す存在ですが、弱い立場ゆえ社会の矛盾や経済のひずみの犠牲となります。自らを守れない子どもを護るのは大人の責任であり義務です。貧困や虐待の背景には必ず大人の問題があります。子どものために何ができるのか——その問いを常に胸に刻み、私たち大人が真剣に考え続けなければなりません。

(一般社団法人熊本県私立幼稚園連合会・副理事長、熊本市・幼保連携型認定こども園城北幼稚園／園長 米澤静江)

編集後記

先日、現在中学生になる卒園生の男子が園を訪ねてきてくれました。当時の担任教師よりも背が高くなった卒園生を見て、8年前の卒園式の時に彼とけん玉勝負をしたことをふと思い出しました。その時の写真を彼とご家族は大切に保管してくれていることを聞き、さらに嬉しくなりました。

卒園生との再会は特別です。本園では、卒園生が園に来る機会をできる限り増やすため、各種習い事や講演会、サークル活動など卒園生がいつで

も幼稚園に来園できる環境づくりを目指しています。例えば、習い事を通して卒園生と毎週顔を合わすだけで、お互いに安心感を覚える瞬間があります。「先生も、僕も、私も」「元気に頑張っているよ」というお互いの声が、離れていても聞こえてくる気がします。卒園生との時間は、幼稚園・こども園としてこれからも地域でしっかりと立って歩みを進める気持ちを新たにしてくれます。

(広報委員・山内淳)

クラスや園のみんなで楽しめる

アプリがチャイルドブックから登場！



ダウンロード無料

お誕生日会に

生活指導に



絵本の読み聞かせに

いっしょによむぞう サブスクリプション料金

特別価格

1 アカウント／月額プラン 5,500 円 (税込)

※チャイルドブック担当営業員を介してご購入いただいた場合の価格です。

1 アカウント／年額プラン 55,000 円 (税込)

初回会員登録限定 30日間無料体験実施中！

対応 OS iPad OS 14 以降 Android 5.0 以降

会員登録した日から 30 日間無料ですべての機能をご利用いただけます。ぜひ、この機会にお持ちの端末でお試ください。

iPad は
こちらから



Android は
こちらから



〒112-8512 東京都文京区小石川 5-24-21
TEL 営業 03-3813-2141 編集 03-3813-3785

チャイルド本社